

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農林水産部長

令和5年度 兵庫県農業気象技術情報第4号（8月情報）について（送付）

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	全県共通	<p>1 生育</p> <p>県南部の極早生品種の「キヌヒカリ」、「どんとこい」では、草丈が平年並～やや長く、茎数はやや少ない。一方、普通期の「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」では、草丈は平年に比べて長く、茎数は「ヒノヒカリ」、「きぬむすめ」で少ない。</p> <p>県北部では、草丈は平年並、茎数は平年並～極めて多い。出穂は「コシヒカリ」で平年よりやや早くなる見込みである。</p>	
		<p>2 栽培管理</p> <p>早・中生種では、穂肥診断をもとに、適切な穂肥時期、施肥量を判定する。極早生種では、成熟期まで適切な水管理を行い、落水を急がない。出穂後、高温が予想されるので、可能なほ場では夜間の掛け流しかん水に努める。</p> <p>特に乳白米や登熟不良による品質低下を防ぐため、登熟期の水管理は、湿潤（飽水）状態で行い、根の活力の維持に努める。</p>	
		<p>3 病害虫</p> <p>(1) 7月下旬における県全体のいもち病の発生は、やや少ない発生であったが、今後は平年並の発生が予想される。</p> <p>(2) 紋枯病の発生は、県全体ではやや少ない発生である。今後、発生は平年並と予想される。</p> <p>(3) ウンカ類の発生について、ヒメトビウンカは平年並、セジロウンカはやや少なく、トビイロウンカは少ない発生である。トビイロウンカについて、今後気温が高く推移し増殖に好適な条件となるため、発生の推移に留意する。</p>	<p>3 病害虫</p> <p>(1) 箱施用剤は移植後、概ね1ヶ月半頃から効果が減退する。また、ほ場によって葉いもちの発生程度が大きく異なるので、葉色の濃い箇所や日当たりの悪い箇所などほ場内に入ってよく観察し、いもち病の発生の有無を確認する。発生を認めた場合は、速やかに薬剤防除を行う。</p> <p>薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に選定し、適正に防除する。</p> <p>(2) ほ場ごとに発生状況をよく確認し、発生が認められた場合には、出穂前に薬剤防除を行う。</p> <p>(3) ウンカ類に対して長期的に効果のある箱施用剤を施用している場合でも、処理後日数の経過に伴って効果が低下するので、その後の発生に注意する。</p>

水稲	全 県 共 通	<p>(4) 斑点米カメムシ類は、本田での発生は平年並みであるが、今後の発生はやや多くなると予想される。一方、7月上旬以降、出穂の有無にかかわらず、イネカメムシが多く発生しているほ場が見られ、7月下旬には出穂に伴い、加害・増殖が見られている。</p>	<p>(4) 斑点米カメムシ類の発生状況を確認した上、乳熟期～糊熟期に広域的に一斉防除を行う。畦畔・雑草地の除草は、出穂2週間前までに完了させる。出穂間近の畦畔除草は、ほ場内へのカメムシ類の移動を促進するので避ける。なお、出穂前でもほ場内に多くイネカメムシが発生している場合は薬剤防除を行う。</p>
大豆	全 県 共 通	<p>1 生育 7月播種の品種の一部では、早い梅雨入りと降雨の影響で播種作業が遅れ、生育もやや遅れている。梅雨明け前後から高温寡雨で経過しているため、晩播した品種では、播種後降雨がほとんどなく、土壌の乾燥により出芽や生育に影響が出ている。黒大豆や6月播種の品種でも、乾燥害が懸念される。</p> <p>2 栽培管理 降雨後は、ほ場内に雨水が滞水しないように、排水対策に努める。 土壌が乾燥する場合には走り水を行う。開花始めから子実肥大期までの期間は水分保持が最も重要な時期なので、ほ場の乾燥には特に注意し、必要であれば、畝間灌水等を実施する。</p> <p>3 病害虫 (1) 7月下旬における立枯性病害（白絹病）及び茎疫病の発生はやや少なく、紫斑病の発生は少ない。今後、立枯性病害（白絹病）及び茎疫病は平年並の発生、紫斑病はやや少ない発生が予想される。</p> <p>(2) ハスモンヨトウについては、キャベツの項を参照。 カメムシ類については、7月下旬において、県全体でやや少ない発生であったが、今後は平年並の発生が予想される。周辺雑草が好適な繁殖場所となるため、発生に注意する。</p>	<p>3 病害虫 (1) 立枯性病害、特に茎疫病は谷水灌がい実施後等、排水対策の徹底が重要である。高温乾燥時にはかん水が必要であるが、急激に水を入れると根に負担がかかり、茎疫病にかかりやすくなるため、徐々に水を入れ、ほ場に水を溜めっぱなしにしない（あくまで走り水程度）。紫斑病対策としては開花期に防除を行う。</p> <p>(2) ハスモンヨトウの若齢幼虫は、集団で葉上に棲息しているので、早期発見に努め、見つけ次第除去する。カメムシについては、着莢初期～子実肥大期に防除する。薬剤は「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に選定し、適正に防除する。</p>
キャベツ	全 県 共 通	<p>1 栽培管理 (1) 高温期の育苗となるため、過乾燥・過湿に注意して健苗育成に努める。</p> <p>(2) セルトレイ育苗中期以降の肥料切れに注意する。</p> <p>(3) 降雨によるほ場作業の遅れや、台風、長雨による冠水に注意する。</p>	<p>1 栽培管理 (1) ベンチ等での浮かし育苗とし、かん水の過不足がないよう注意するとともに、苗が徒長しないよう日没前のタイミングでのかん水を控える。</p> <p>(2) 早めに液肥を施用する。</p> <p>(3) 高畝栽培とし、明きよ等の排水対策を徹底する。</p>

キ ャ ベ ツ	全 県 共 通	<p>(4) 定植後の活着促進と欠株の発生防止に努める。</p> <p>(5) 除草剤（土壌処理タイプ）の散布タイミングを逃さないよう注意する。</p> <p>2 病害虫 7月におけるフェロモントラップへの成虫誘殺数は、ハスモンヨトウは平年並、シロイチモジヨトウは平年並からやや多い。両虫種とも、今後、ほ場での発生がやや多くなると予想される。 ハイマダラノメイガの発生は、7月下旬において平年並であった。今後、本虫種の発生盛期を迎えることから、やや多い発生が予想されるため、育苗中から被害発生に注意する。</p>	<p>(4) 土壌の適湿時に耕うん、畝立てを行う。定植の際、セルトレイには十分かん水し、根鉢を湿らせておく。定植後は、かん水チューブ等で十分にかん水し、活着を図る。</p> <p>(5) 散布直後に降雨にあたらないよう天気予報を確認し、計画的に作業を行う。</p> <p>2 病害虫 ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの若齢幼虫は集団で加害するので、早期発見に努め、見つけ次第除去する。なお、シロイチモジヨトウについての詳細は7月14日発表の令和5年度病害虫発生予察防除情報第4号を参照する。 ハイマダラノメイガは、育苗期や定植直後に加害を受けると被害が大きいため、予防的な防除に努める。「病害虫発生予察情報」、「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に適正に防除する。</p>										
果 樹	全 県 共 通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 高温乾燥による果実や根、葉の傷みに注意する。</p> <p>(2) 樹勢に応じた着果調節及び枝管理に努める。</p> <p>(3) 適期収穫に努める。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 高温乾燥が続く場合は土壌水分管理に特に注意が必要である。急激な土壌水分の変化を避けるため、敷き草等のマルチを行うとともに、晴天が続く場合には適度なかん水を行う。ブドウでは果実の日焼け防止に傘かけが有効である。</p> <p>(2) 樹種ごとの適正着果量とする。必要以上に枝葉が繁茂している場合は、新梢管理、夏季せん定を行う。</p> <p>(3) カラーチャートや糖度計を活用し、果皮色、糖度、果実の硬さ等から、収穫適期を判断する。</p> <p>樹種別の生育状況（7月3半旬時点）</p> <table border="1" data-bbox="343 1612 1388 1971"> <tr> <td>クリ</td> <td>生育は平年に比べ3日程度早く、着穂は良好である。</td> </tr> <tr> <td>ブドウ</td> <td>生育は平年よりやや遅く、果粒肥大はやや良好であるが、着色は遅れている。</td> </tr> <tr> <td>ナシ</td> <td>果実の生育は昨年比で8日早く、平年比で6日早い。</td> </tr> <tr> <td>イチジク</td> <td>着果始めは平年に比べ6日早く、新梢の生育は平年より早い。</td> </tr> <tr> <td>温州ミカン</td> <td>極早生、中生で表年、早生で裏年傾向、生理落果は平年より少なく、果実の生育は平年並みである。</td> </tr> </table> <p>調査地点：クリ、ブドウ、イチジクは加西市、ナシは但馬地域、温州ミカンは南あわじ市</p>	クリ	生育は平年に比べ3日程度早く、着穂は良好である。	ブドウ	生育は平年よりやや遅く、果粒肥大はやや良好であるが、着色は遅れている。	ナシ	果実の生育は昨年比で8日早く、平年比で6日早い。	イチジク	着果始めは平年に比べ6日早く、新梢の生育は平年より早い。	温州ミカン	極早生、中生で表年、早生で裏年傾向、生理落果は平年より少なく、果実の生育は平年並みである。
クリ	生育は平年に比べ3日程度早く、着穂は良好である。												
ブドウ	生育は平年よりやや遅く、果粒肥大はやや良好であるが、着色は遅れている。												
ナシ	果実の生育は昨年比で8日早く、平年比で6日早い。												
イチジク	着果始めは平年に比べ6日早く、新梢の生育は平年より早い。												
温州ミカン	極早生、中生で表年、早生で裏年傾向、生理落果は平年より少なく、果実の生育は平年並みである。												

果樹 全 県 共 通	2 台風対策 気象情報に留意し、台風の接近が予想される場合は右記の対策を行う。	2 台風対策 枝折れ防止のため、枝の結束や支柱の強化を行う。防風ネットの補強や防風林の適切な刈り込みを行う。収穫可能な果実はできるだけ収穫しておく。雨水が速やかに園外に流れるよう、排水溝、排水口を点検する。 台風通過前から、病害予防のため薬剤防除を行う。イチジクは腐敗果を速やかに園外に持ち出し処分する。
	3 病害虫 7月下旬のナシ黒斑病は平年よりやや多い発生であり、今後もやや多い発生が予想される。 果樹カメムシ類は、7月下旬では発生はやや少ないが、今後、平年並の発生となると予想している。なお、多食性であるミナミアオカメムシは平年並の発生が確認されている。	3 病害虫 ナシ黒斑病についての詳細は、6月22日発表の令和5年度病害虫発生予察防除情報第3号を参照する。 カメムシ類の飛来状況は地域や園地で異なるため、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかに防除する。 防除薬剤については「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考に選定し、農薬使用基準を守るとともに周辺農地への飛散防止に努める。

◎水稲・麦・大豆の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考にすること。  
※本情報は、7月31日時点のデータを元に作成しています。

## 2 気象予報

### (1) 近畿地方の向こう1か月予報

近畿地方 1か月予報 (07/29~08/28)			
2023年07月27日14時30分 大阪管区気象台 発表			
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 07/29~08/28	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	
	気温	平均気温は、高い確率70%です。	
1週目 07/29~08/04	気温	1週目は、高い確率70%です。	
2週目 08/05~08/11	気温	2週目は、高い確率70%です。	
3~4週目 08/12~08/25	気温	3~4週目は、高い確率50%です。	
気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 07/29~08/28	10 20 70
		1週目 07/29~08/04	10 20 70
		2週目 08/05~08/11	10 20 70
		3~4週目 08/12~08/25	20 30 50
降水量	近畿地方	向こう1か月 07/29~08/28	30 40 30
日照時間	近畿地方	向こう1か月 07/29~08/28	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## (2) 近畿地方の向こう3か月予報

近畿地方 3か月予報 (08月~10月)		
2023年07月25日14時00分 大阪管区気象台 発表		
08月~10月	気温	平均気温は、高い確率50%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
08月	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。
09月	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
10月	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率50%です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	08月~10月	20 30 50
		08月	20 30 50
		09月	20 30 50
		10月	20 30 50
降水量	近畿太平洋側	08月~10月	20 40 40
		08月	30 40 30
		09月	20 40 40
		10月	30 30 40
	近畿日本海側	08月~10月	20 40 40
		08月	30 40 30
		09月	20 40 40
		10月	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

### ホームページアドレス

- 「兵庫県病害虫防除所(病害虫発生予察情報)」  
<http://bo.jo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>
- 「病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)」  
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- 「稲・麦・大豆作等指導指針」  
[http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11\\_000000107.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html)

### 問い合わせ先

#### 本情報に関すること

- 兵庫県農林水産部農産園芸課 TEL (078) 341-7711(代表)  
農産班: 主作・機械担当 内線 4074  
農産班: 野菜担当 内線 4054  
花き果樹班 内線 4066

#### 技術内容に関すること

- 県立農林水産技術総合センター  
企画調整・経営支援部 TEL (0790) 47-2435  
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790) 47-2410  
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790) 47-1222  
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079) 674-1230  
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799) 42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL: [http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11\\_000000097.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html)

(兵庫県トップページ>分類から探す>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)